

新湊みなとまちづくり方策



平成17年3月

富山県新湊市

はじめに

「あゆの風 いたく吹くらし 奈呉の海人の 釣する小舟 漕ぎ隠る見ゆ」（強い東風が吹いているらしい。奈呉の海人の釣りする小舟が、波の間に漕いでいるのが見え隠れしている。）

万葉の時代、越中（富山県）国司としてこの地に赴任した万葉歌人大伴家持は、こよなく愛した風光明媚な「奈呉の浦」の歌を万葉集の中で残しており、この地の風景は、現在、特定重要港湾伏木富山港（新湊地区）の開港により、環日本海時代の交流拠点、そのゲートウェイ、そしてさまざまなロマンを秘めた貴重な港湾空間として大きく変貌を遂げております。

また、数年後には、港の両翼を担う東西の埋立地（海王町・海竜町）を結ぶ新湊大橋（仮称）が完成する予定であり、今後ますますの発展が期待されております。

一方、本市中心市街地を東西に流れる「内川」周辺は、市民の暮らしと営みの場であると同時に、瓦葺きの日本家屋が整然と建ち並び、かつての日本の港町風情を今に残す最後の場所として、広く注目を集めております。

今、私たちに求められているのは、偉大な先人たちが築き上げてきた貴重な海辺の財産を後世に引き継ぎ、そしてその財産を有効に活用していくことでもあります。

このたび、臨海部における未利用地の利活用と臨海部と中心市街地との連携による新湊の活性化方策について検討し、「新湊みなとまちづくり方策」を策定いたしました。今後は市民の皆様とともに、この方策に掲げた諸事業の実現に向け、全力を尽くしていく所存であります。

この方策の策定に当たりまして、熱心にご協議を賜りました新湊市みなとまちづくり方策検討委員会委員をはじめ、貴重なご意見をいただきました関係の皆様に対し、心から敬意と感謝を申し上げます。

平成17年3月

新湊市長 分 家 静 男

- 目 次 -

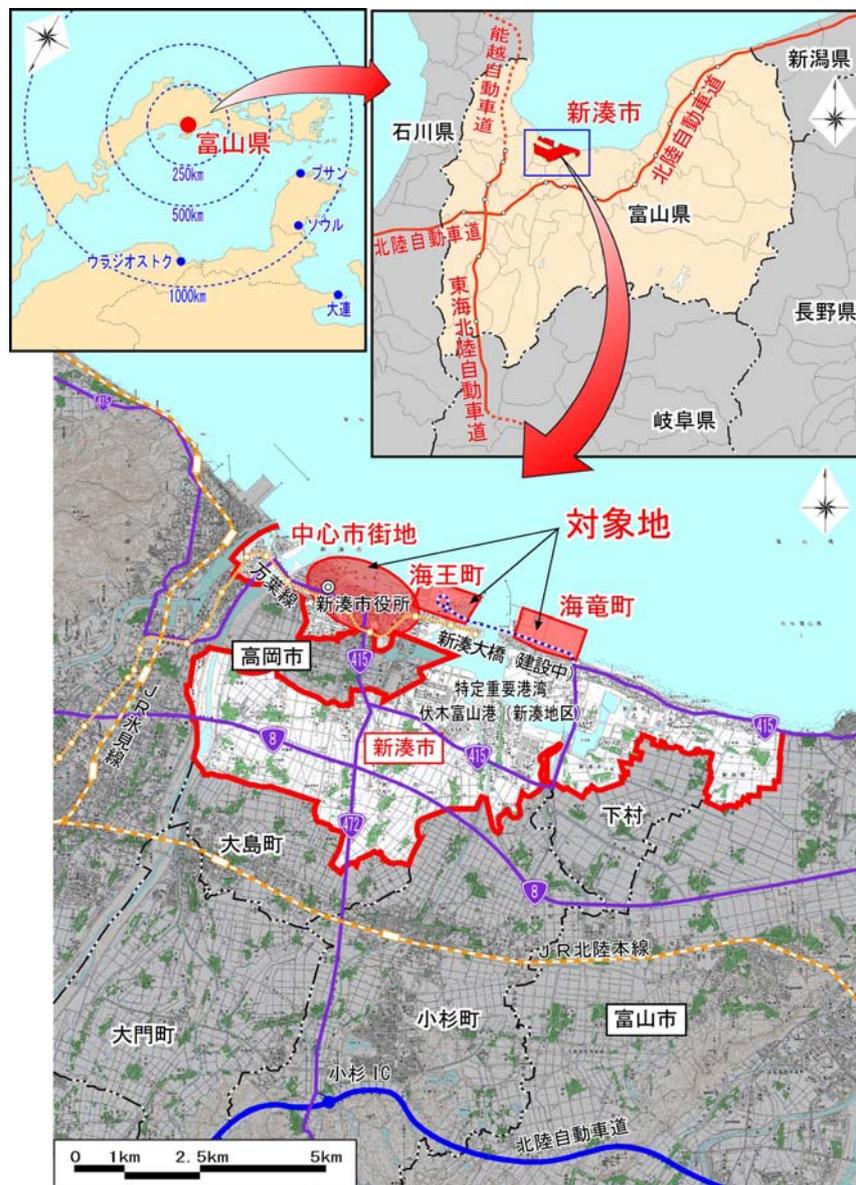
1	新湊みなとまちづくり方策策定の趣旨	1
2	現況	2
2 - 1	新湊市の現況	2
2 - 2	中心市街地の現況	4
2 - 3	臨海部（東西両埋立地：海王町・海竜町）の現況	5
3	上位計画	6
3 - 1	上位計画における臨海部の位置付け	6
3 - 2	新湊大橋（仮称）の計画概要	6
4	臨海部の土地利用活用方策	7
4 - 1	共通テーマ	7
4 - 2	土地利用の方向性	8
4 - 3	土地利用活用方策	9
5	臨海部と中心市街地との連携方策	12
5 - 1	連携の方向性	12
5 - 2	臨海部と中心市街地との連携方策	14
6	新湊みなとまちづくり方策	15
7	方策の実現化に向けて	20
7 - 1	実現化に向けた考慮事項	20
7 - 2	実現化の方針	22
参考 1	新湊みなとまちづくり方策の将来イメージ	23
参考 2	住民意向の把握	30
2 - 1	アンケート調査	30
2 - 2	ワークショップ	31
参考 3	国際交流イベント	32
参考 4	検討の経過	33
	「新湊市みなとまちづくり方策検討委員会」委員等名簿	34
	「新湊みなとまちづくり方策」イメージパース	

1 新湊みなとまちづくり方策策定の趣旨

新湊市臨海部に位置する富山新港東西両埋立地（海王町、海竜町）では、これまで、年間 80 万人の集客を誇る海王丸パークをはじめとした各種施設が整備されてきたほか、平成 14 年秋には、両埋立地を結ぶ臨港道路富山新港東西線、いわゆる新湊大橋（仮称）が概ね 10 年後の完成を目指し、本格着工されたところである。

日本海側最大級の規模を誇る 5 径間連続複合斜張橋、新湊大橋（仮称）の完成は、この地域に物流、交通、観光など、多岐の方面に計り知れない影響を与えるものと予想される。

新湊市では、この大橋の完成を地域活性化のための大きなチャンスであると捉え、両埋立地における未利用地の活用と、中心市街地と両埋立地との連携による地域活性化の方策について検討し、みなとを中心とした新しいまちづくりの指針として、ここに「新湊みなとまちづくり方策」を策定するものである。



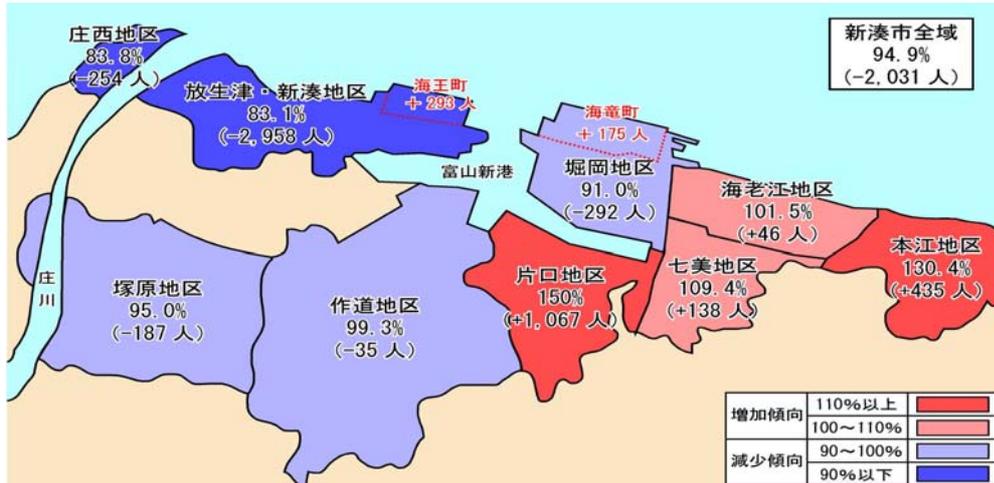
対象地域位置図

2 現況

2 - 1 新湊市の現況

(1) 人口

- 人口は37,025人（H16.10）であり、昭和29年をピークに減少傾向にある。
- 東部地区では人口が増加傾向にあるが、中心市街地（放生津・新湊地区）では著しく人口が減少している。
- 平成16年における高齢人口（65歳以上）の割合が23.8%、年少人口（15歳未満）の割合が13.5%と少子高齢化が進行している。



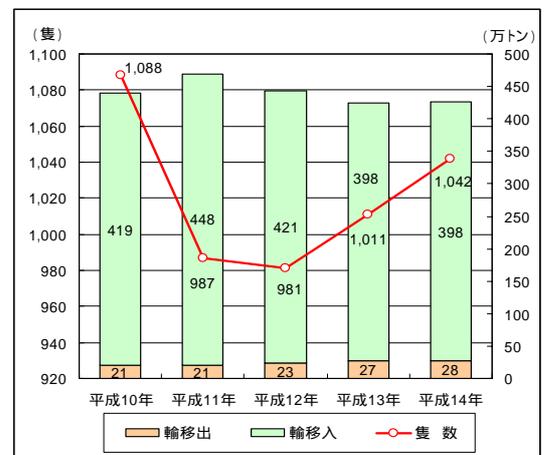
過去10年間（H6 - H16）の地区別人口推移

平成6年人口を100%とした割合及び増減

資料：住民基本台帳人口

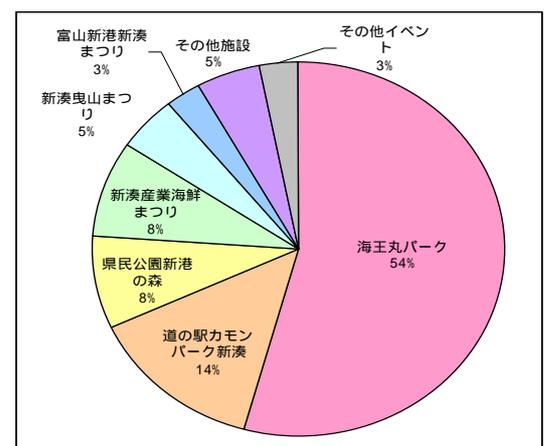
(2) 産業

- 小売業の商店数及び従業者数は減少傾向にあり、商品販売額も平成3年をピークに減少傾向にある。
- 漁業が盛んで、水揚げされる魚種は日本有数であり、豊富な水産資源を背景に市場では1日2回のセリが行われている。
- 特定重要港湾である伏木富山港新湊地区（富山新港）は環日本海諸国との貿易が盛んであり、年間約440万トンの貨物が取り扱われている。
- 富山新港の背後地には臨海工業地帯があり、アルミや木材などを扱う多くの企業が立地しているが、市内の事業所数及び従業者数は減少傾向にある。
- 観光入込客数は年間約150万人であるが、その約8割が県内からの入込客であり、98%が日帰りの入込客である。
- 海王丸パークには市内への観光入込客の半数以上を占める年間約80万人が訪れている。
- 観光をビジネスチャンスと考える商業者が多い。



富山新港の入港隻数と輸移出入の推移

資料：富山県港湾課



(3) 交通

- 南北の幹線道路として国道 472 号があり、国道 8 号と北陸自動車道小杉 IC を連絡している。
- 国道 8 号や北陸自動車道小杉 IC から臨海部へのアクセスは良好であるが、中心市街地内の道路は細街路が多い。
- JR 高岡駅と連絡する路面電車「万葉線」が通っているほか、市内全域を網羅するコミュニティバスが運行されている。
- 今後、東海北陸自動車道の全線開通や北陸新幹線開業により、首都圏や中京圏との時間距離の短縮が期待される。
- 首都圏から北陸地方への観光客の中には、富山空港、能登空港及び小松空港を利用した周遊型の観光客も見受けられる。



高速道路による3大都市圏との連絡

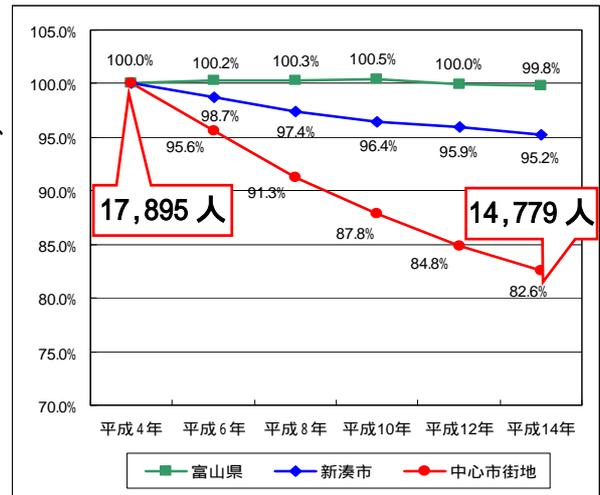


鉄道による3大都市圏との連絡

2 - 2 中心市街地の現況

(1) 人口

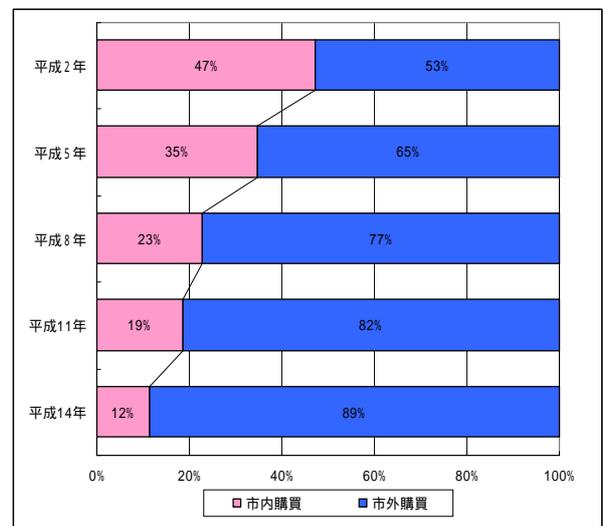
- ・ 中心市街地（放生津・新湊地区）の人口は平成16年で14,331人となっており、急激に減少している。
- ・ 平成16年の高齢人口の割合は28.2%となっており、急速な高齢化が進行している。



中心市街地の人口推移

(2) 産業

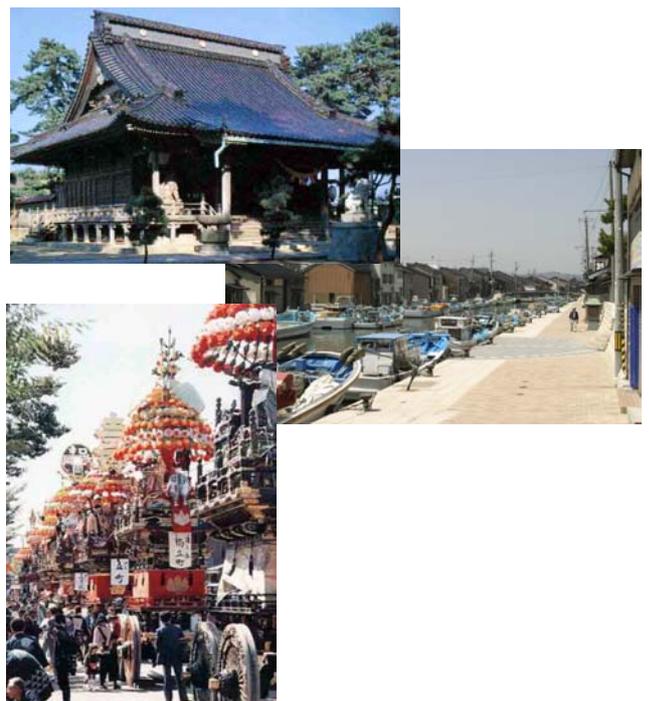
- ・ 市民の地元購買率は12%であり、高岡市や富山市、小杉町への購買流出傾向が強くなっている。
- ・ 商店街における歩行者交通量も減少傾向にある。
- ・ 曳山祭りなどのイベントを中心に、年間約10~15万人の観光入込がある。



地元購買率の推移

(3) 歴史・文化

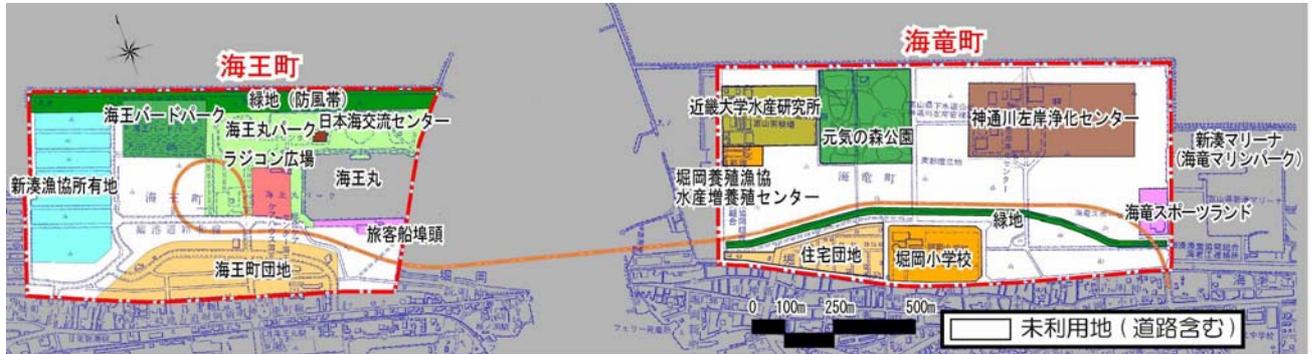
- ・ 中心市街地は古くから栄えたまちであり、神社仏閣や史跡が多く点在している。
- ・ 本市中心市街地を東西に流れる内川は、市民の暮らしと営みの場であると同時に、瓦葺きの日本家屋が整然と立ち並ぶ、かつての日本の港町風情を感じられる数少ない場所として、広く注目を集めている。
- ・ 新湊漁港に水揚げされる豊富で新鮮な水産資源を背景に、市街地には多くの寿司屋があり、全飲食店における2割を占めている。



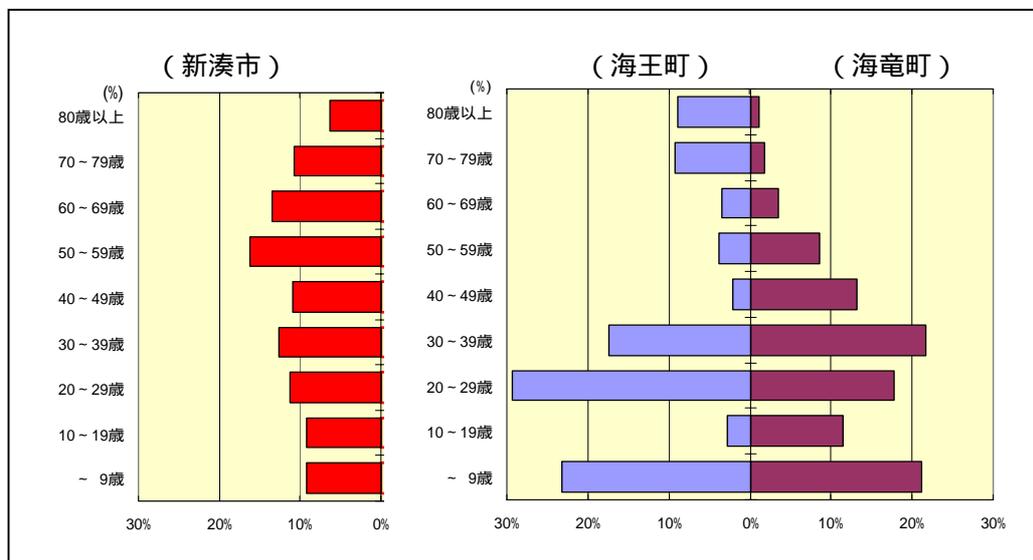
中心市街地の歴史文化資源

2 - 3 臨海部（東西両埋立地：海王町・海竜町）の現況

- ・ 臨海部では、これまで海王丸パークをはじめとした各種施設が整備されてきたが、多くの未利用地が残っている。
- ・ 一方、新たな住宅の供給が行われており、比較的若年層の人口が増加する傾向にある。
- ・ 平成 14 年秋に、両埋立地を結ぶ臨港道路富山新港東西線、いわゆる新湊大橋（仮称）が概ね 10 年後の完成を目指し、本格着工されたところである。



臨海部の施設現況と未利用地



海王町・海竜町の年齢階層別人口構成（平成 16 年）資料：住民基本台帳人口

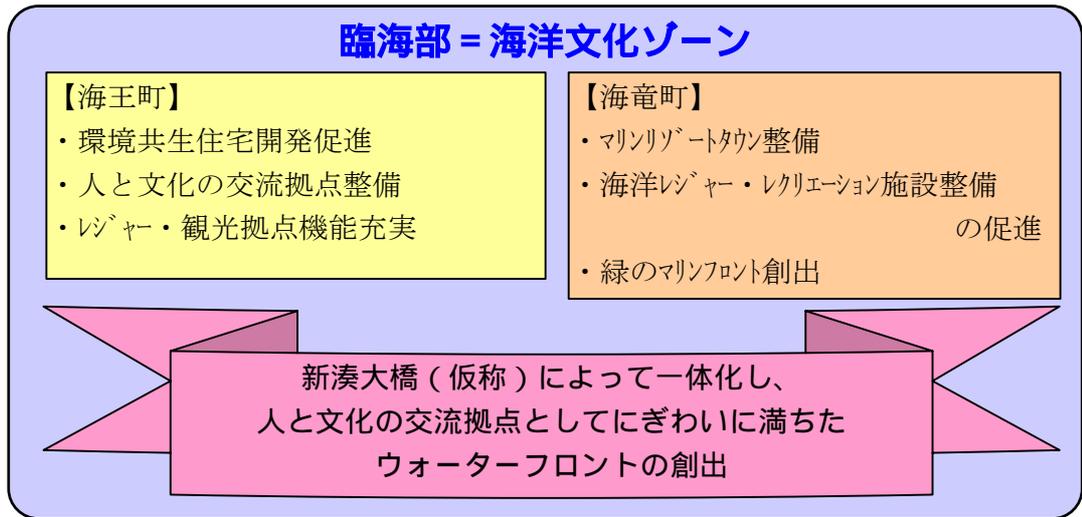


完成が待たれる新湊大橋（仮称）

3 上位計画

3 - 1 上位計画における臨海部の位置付け

- ・ 総合計画においては、臨海部を海洋文化ゾーンと位置付け、海王町は、環境共生住宅開発の推進や人と文化の交流拠点整備が、海竜町は戸建て住宅を中心としたマリリゾートタウンの整備や海洋レジャー・レクリエーション施設の整備促進を位置付けている。
- ・ 都市計画マスタープランにおいては、海王町は海王丸パークを核としたレジャー・観光拠点としての機能充実、海竜町は元気の森公園の整備促進などによる緑のマリンフロント創出を位置付けており、「新湊大橋（仮称）によって一体化し、人と文化の交流拠点としてにぎわいに満ちたウォーターフロントを創出する。」としている。



上位計画における臨海部の位置付け

3 - 2 新湊大橋（仮称）の計画概要

- ・ 新湊大橋（仮称）は富山新港の東西両埋立地を結ぶ斜張橋であり、伏木富山港の機能強化や地域住民の利便性向上、観光資源としての役割など、新湊市及び富山県の発展に大きく貢献するものと期待されている。
- ・ 車道の下部には、冬期でも安全に通行できる自転車歩行者道を備えている。
- ・ 富山新港のメインゲートとなる橋であるため、橋への眺望及び橋からの眺望を重視し、景観に配慮した計画となっている。

【全体コンセプト】

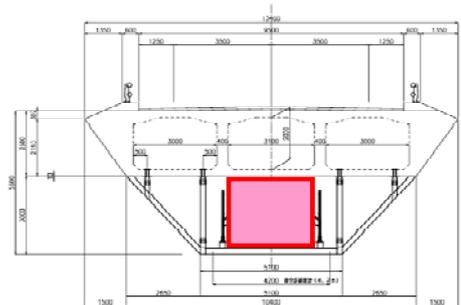
—伏木富山港の古き良き伝統を踏まえ、21世紀の環日本海地域の新たな象徴、交流と安らぎの場を創出する橋梁デザイナー—

【主橋梁部デザイン】

海上に浮かぶ空中歩廊
～海と風と歴史を感じる自転車歩行者道～

【アプローチ部デザイン】

海風そよぐ交流の門
～「まち」と「新たなウォーターフロント」をつなぐ



桁下の自転車歩行者道

4 臨海部の土地利用活用方策

4 - 1 共通テーマ

臨海部の土地利用活用方策に関する共通テーマを以下のとおり設定する。



環境との調和（①）や海及び海辺への意識（②）を土台に、新湊の特長（③）を活かし、環日本海の中の新湊という視点から、国内外の人・文化の結節点の形成を図る。

環境との調和

- これまでの中心市街地に不足していた緑やゆとり空間を十分に取り込み、自然環境に配慮した快適で心癒されるまちの形成を図る。
- 持続可能な資源循環型社会の実現に向けた取り組みを先導する、環境先進地の形成を図る。

海及び海辺への意識

- 新湊の発展の礎となった海や港といった水辺空間を最大限に活かしたまちの形成を図る。

新湊の特長

- 新湊みなとまちづくり方策策定に当たり、活かすべき新湊の特長は以下のとおりである。

既存の中核的資源及び特長	積極的活用・展開が期待される資源及び特長
<p>〔景観・環境〕</p> <ul style="list-style-type: none">• 海や港といった水辺空間• 海のロマンを喚起させる帆船海王丸• 中心市街地における観光・歴史的資源（内川の風景や特色のある橋、神社仏閣など） <p>〔水産資源・食文化〕</p> <ul style="list-style-type: none">• 新鮮で種類が豊富な水産資源• 寿司に代表される食文化 <p>〔公共交通機関〕</p> <ul style="list-style-type: none">• 万葉線を中心とした公共交通	<ul style="list-style-type: none">• 無限の可能性を秘めた新湊大橋（仮称）• 環日本海諸国との交流• 海洋深層水

4 - 2 土地利用の方向性

(1) 土地利用の方向性

既存施設を含む周辺地域の状況や我々を取り巻く社会の情勢を踏まえ、海王町・海竜町の土地利用の方向性を以下のとおり設定する。

< 海王町の土地利用の方向性 >

^{にぎ}賑わいのある交流空間

レジャー・娯楽などについて特色あるサービスを提供し、国内外に「新湊」を発信するための拠点として、^{にぎ}賑わいのある交流空間の形成を目指す。

< 海竜町の土地利用の方向性 >

近未来を考えた高質空間

持続可能な資源循環型社会の実現に向け、海洋や環境に関する研究機能の集積を図るとともに、健康的で心癒される市民生活を支援する機能を集積した、近未来を考えた高質空間の形成を目指す。

(2) 土地利用活用方策策定における考慮事項

土地利用活用方策策定に向けて、以下の事項を考慮するものとする。

中心市街地との連携
景観を活かした機能配置
新湊大橋（仮称）完成に向けた対応

中心市街地との連携

臨海部が、内川などの貴重な観光資源が残されている中心市街地と連携し合うことにより、臨海部への来訪者が中心市街地へ誘導され、結果として新湊全体の活性化が期待できることから、臨海部と中心市街地との連携を重視した土地利用活用方策を考えるものとする。なお、臨海部において、中心市街地との連携の役割を担う万葉線の路線延伸が検討されていることから、臨海部の土地利用活用方策を検討するに当たっては、万葉線の路線延伸に配慮した機能配置を行う必要がある。

景観を活かした機能配置

臨海部の魅力の基盤は、帆船海王丸、新湊大橋（仮称）、そして3000メートル級の山々が連なる立山連峰などが織り成す景観であることから、機能（施設）を配置する際には、これらの景観を活かした機能配置が必要である。また、臨海部における良好な景観の形成に向け、可能な限り多くの緑地を配置するとともに、施設周辺についても積極的な緑化を行い、緑あふれる景観の形成を図る必要がある。

なお、策定した方策の実現については、取り組みの長期化が予想されることから、当面の間、空地となる土地の取扱いについても十分配慮する必要がある。

新湊大橋（仮称）完成に向けた対応

新湊大橋（仮称）は、周辺の交通機能を向上させるだけでなく、新湊市そして富山県の新しいシンボルとも成り得る構造物であり、特に集客面においては、大きな効果が予想される。新湊市ではこの集客効果を確実に捉え、それを継続（リピーター化）させていくため、新湊大橋（仮称）の完成時期に合わせた土地利用活用方策を策定する必要がある。

4 - 3 土地利用活用方策

臨海部の土地利用活用方策の実現化は長期的な取り組みとなることから、段階的な整備を想定し、その方策を提案する。

第1段階：地域に大きな影響を与える新湊大橋（仮称）の完成まで
第2段階：それ以降の長期

(1) 海王町の土地利用活用方策

< 第1段階 >

新鮮で種類が豊富な魚介類の提供や新湊大橋（仮称）などの景観を背景とした集客力の向上

交通機能

- ・ 内川や新湊大橋（仮称）などの魅力を活かした新たな交通手段の提供
- ・ 公共交通機関と連携した駐車場の整備（中心市街地への連絡機能の向上を考慮）
- ・ 公共交通機関の利便性向上
- ・ 景観に配慮した道路整備（中心市街地への連絡機能の向上を考慮）

集客機能

- ・ 新湊の新鮮で種類が豊富な魚介類や海辺の環境を来訪者や市民に提供
- ・ 帆船海王丸や新湊大橋（仮称）、立山連峰が織り成す景観及び海辺の雰囲気の利用（オープンカフェ、温浴施設）
- ・ 漁業体験（ホタルイカ漁の見学など）による集客

情報提供機能

- ・ 新湊大橋（仮称）、臨海部、中心市街地など地域の情報を提供
- ・ 暮らしの情報館（新湊市出身の著名人に着目）

居住機能

- ・ 新湊大橋（仮称）や公共交通の利便性を活かした集合住宅やケアハウス
- ・ 新湊大橋（仮称）と調和した良好な街並みの形成

レクリエーション機能

- ・ 水辺空間の活用や憩いの空間の創出
- ・ 既存施設（海王丸パーク）の機能拡充

コミュニティ活動

- ・ 市民のコミュニティ活動の場として遊休地などを活用

< 第2段階 >

環日本海諸国や日本海沿岸自治体との関連強化による集客力の向上
公共交通の充実による交通アクセスの向上

宿泊滞在機能

- ・ 来訪者が新湊の魅力を満喫するために必要な滞在拠点の整備

集客機能

- ・ 環日本海諸国の文化、交流をテーマとした展開
- ・ 漁業との連携（釣り堀・水族館）

交通機能

- ・ 海上交通を利用した環日本海諸国や日本海沿岸自治体との連絡
- ・ 公共交通機関の利便性向上

コミュニティ

一定のルールを共有する人々の集まりのこと。地域のくらしを共有する「地域コミュニティ」と、関心や想いを共有する「テーマコミュニティ」がある。

(2) 海竜町の土地利用活用方策

< 第1段階 >

健康的な生活環境の追求 持続可能な資源循環型社会の実現に向けた取り組み

健康機能

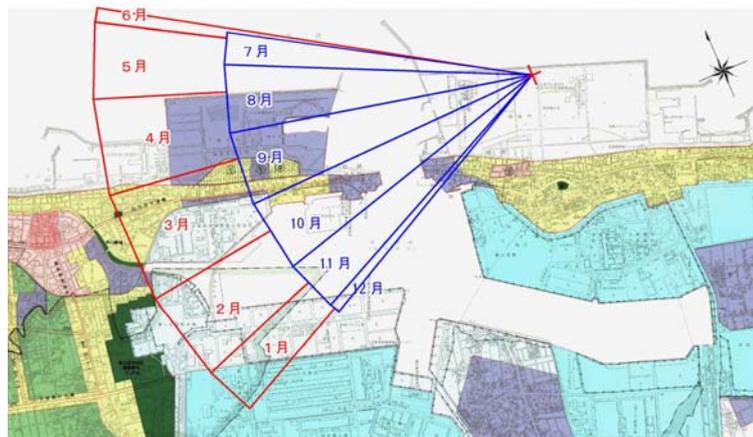
- ・ 市民が日常的に利用するパークゴルフなどの軽スポーツ機能や憩いの空間を提供

研究機関との連携機能

- ・ 環境面での先導的地域を目指すための研究の推進
- ・ 海洋水産技術に関する研究の推進及び実用化

眺望機能

- ・ 海王丸パーク側からの新湊大橋（仮称）への眺望とは違った、夕日と海と大橋の眺望を提供



眺望点から見た日没の位置

居住機能

- ・ 住宅地の整備促進及び緑豊かで良好な街並み形成のための施策の展開

コミュニティ活動

- ・ 環境教育と一体となった市民活動などの場の提供

< 第2段階 >

健康的で心癒される生活環境の提供 持続可能な資源循環型社会の実現に向けた環日本海における拠点形成

健康癒し機能

- ・ 市民の健康づくりのための施設（海洋深層水を活用）の提供
- ・ 環日本海諸国の手法を取り入れた健康癒しサービスの提供

研究機関との連携機能

- ・ 環境産業の振興とその技術の環日本海諸国への普及促進
- ・ 環境問題の国内外への啓発活動
- ・ 研究成果の実用化

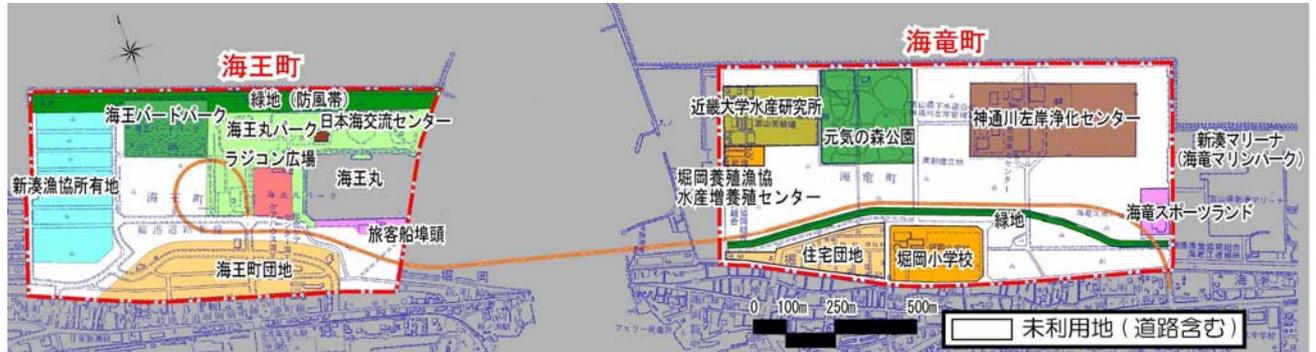
教育機能

- ・ 市内飲食店の後継者育成を念頭に置いた調理学校の誘致（全国に広がる卒業生による新湊の魅力のPRも期待）
- ・ 市民向け料理教室の開催

(3) 遊休地の土地利用活用方策

海王町及び海竜町に残る多くの未利用地には雑草が繁茂し、景観・環境上問題があるため、現在その対策が求められている。しかし、これらの未利用地を短期間で利活用することは困難であり、今後、土地利用が進む過程においても当面の間、遊休地として残る箇所が発生すると考えられる。

そのため、このような遊休地の利用活用方策について、以下のとおり提案する。



臨海部の未利用地の状況

適切な管理と活用

本方策では、臨海部の土地利用の方向性を「交流空間（海王町）」と「高質空間（海竜町）」と設定している。この方向性を踏まえ、当面の間、遊休地となる箇所については、雑草の繁茂や廃棄物の不法投棄を防止するなど、適切な維持管理を行うものとする。

また、臨海部で行われるイベントには多くの来訪者があり、広大な駐車スペースが必要となっている。現在は海王町側のみで駐車スペースを確保しているが、新湊大橋（仮称）の完成による海竜町との時間距離の短縮に伴い、今後は海竜町側に駐車スペースを求めることが可能となる。加えて、暫定的な方策として、市民のコミュニティ活動の場としての活用（市民花壇）も考えられる。

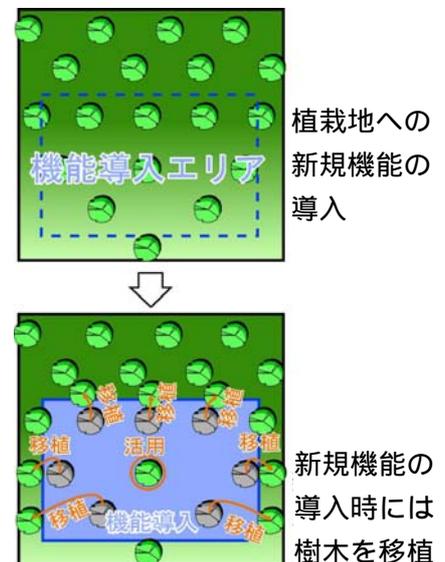
遊休地の方策

- ・ 周辺環境の悪化を防ぐ適切な管理
- ・ イベント開催時の臨時駐車スペースとしての活用
- ・ 市民のコミュニティ活動の場としての活用（花壇づくりなど）

海辺の森づくり

本方策では両地区の土地利用の土台として“環境との調和”を位置付けており、その一環として、遊休地に海辺の森を形成するものとする。海辺の森は、緑のボリュームに、地被（芝生など）－疎林－自然林といった変化を持たせることで良好な環境を創出し、海王町の海王バードパークと海竜町の元気の森公園の二つの「緑の核」と一体となり、心癒される空間や市民の健康づくりのための空間を形成するものである。

また、植栽地に、他の機能の導入を図る場合には、樹木を移植するなど、一定量の緑地を確保するための配慮が必要である。なお、新湊大橋（仮称）沿線については、大橋への景観を良好に保つため、海辺の森を積極的に配置することとする。



植栽地へ新規機能導入時の考え方

5 臨海部と中心市街地との連携方策

5 - 1 連携の方向性

(1) 連携の視点

臨海部と中心市街地との連携を図るため、以下の視点で必要となる事項を整理した。

人や情報の連携

これまでに「新湊市中心市街地活性化基本計画」や「新湊TMO構想」において提案されている中心市街地活性化に向けた方策を踏まえ、臨海部と中心市街地との「人や情報の連携」がスムーズに行われるために必要となる事項を以下に列挙する。

魅力ある中心市街地づくり及びPR

内川の魅力向上、中心市街地の観光・歴史的資源の掘り起こし、情報発信など

連絡手段の整備による移動抵抗の低減

既存連絡手段（万葉線・コミュニティバスなど）の整備

- ・ 万葉線：路線の延伸に加え、新湊の個性であり全国でも希少な路面電車を最大限に活かす工夫が必要
- ・ コミュニティバス：増便や新たなルートの検討
- ・ 遊歩道：美しい風景を楽しみながら歩ける遊歩道及び案内誘導設備の整備
- ・ 自動車の動線整備：駐車場・道路などの整備（中心市街地と臨海部が一体となったまちを形成）

新たな連絡手段の導入

- ・ 乗ること自体が非日常体験となる遊覧船
- ・ 潮風を感じながら移動できるレンタサイクル

共通・企画乗車券の導入

- ・ 多様な乗り物を選択できる楽しさや市街地での食事との組み合わせによる魅力をアピール

機能の連携

臨海部と中心市街地に不足している機能を相互に補完し、臨海部と中心市街地が一体となったまちを形成するために必要となる事項について整理した。

臨海部に求められる機能

中心市街地を訪れる観光客に対する玄関口としての機能

- ・ 中心市街地来訪者の駐車場機能
- ・ 中心市街地の情報提供及び中心市街地への誘導機能

中心市街地のオアシスとしての機能

- ・ 中心市街地に居住、就業する人々の憩いや癒しの場としての機能

中心市街地に求められる機能

臨海部とは方向性の異なる観光機能

- ・ 内川周辺の風景や古い歴史、文化などを活かした観光・集客機能

臨海部に少ない都市機能

- ・ 商業や行政によるサービス提供機能

レンタサイクル
貸し自転車

(2) 連携の方向性

新湊大橋（仮称）の完成に伴い来訪者の増加が臨海部と中心市街地との連携の方向性を以下のとおり設定する。

各地域の資源を活かした 連携による一体的で活力のあるみなとまちの形成

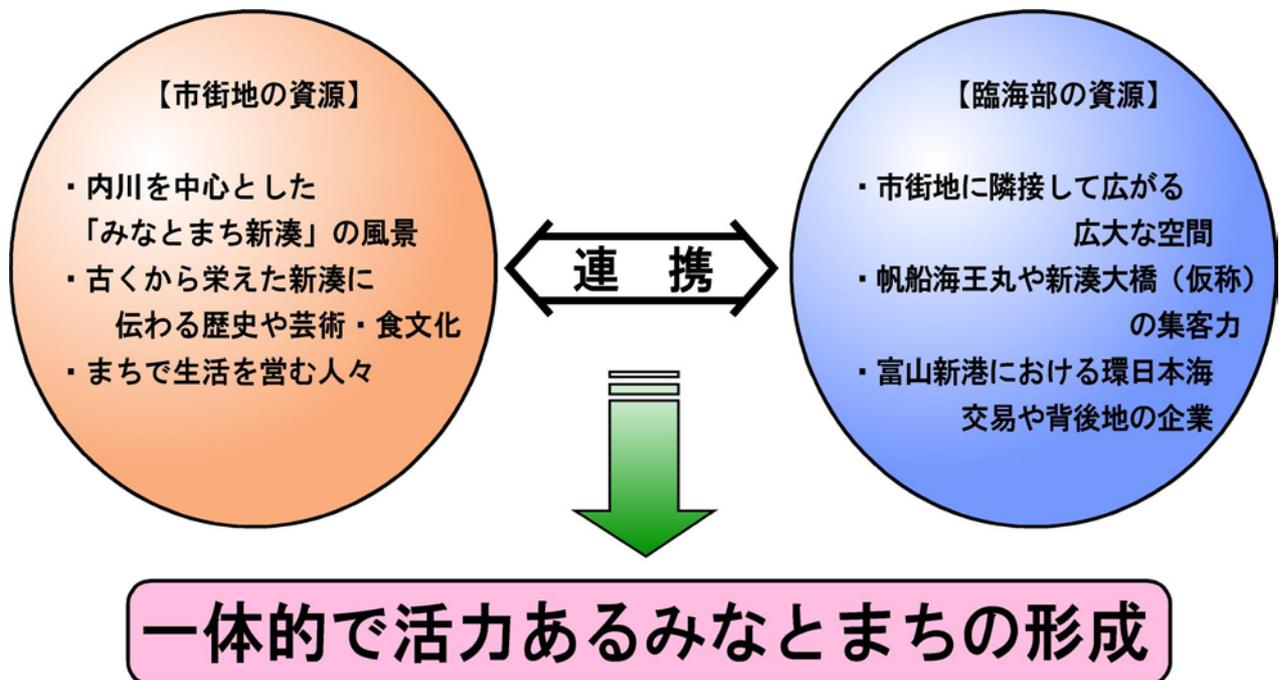
臨海部と中心市街地にある既存施設や観光・歴史的資源をもう一度見直し、それぞれの持つ特長を活かして相互補完することにより、一体的で活力のある地域の形成を図る。
なお、連携方策の策定に当たり、着目する主要な資源の例を以下に挙げる。

臨海部の資源

- ・ 中心市街地に隣接して広がる広大な空間
- ・ 帆船海王丸や新湊大橋（仮称）の集客力
- ・ 富山新港における環日本海交易や背後地の企業

中心市街地の資源

- ・ 内川を中心とした「みなとまち新湊」の風景
- ・ 古くから栄えた新湊に伝わる歴史や芸術、食文化
- ・ まちで生活を営む人々



連携方策の体系

5 - 2 臨海部と中心市街地との連携方策

臨海部と中心市街地との連携方策についても、臨海部の土地利用活用方策と同様に、段階的な整備を想定し、提案するものである。

第1段階：地域に大きな影響を与える新湊大橋（仮称）の完成まで
第2段階：それ以降の長期

(1) 連携方策の視点

< 第1段階 >

*内川の景観を中心とした中心市街地の資源活用による集客力の向上
臨海部と中心市街地との連携の強化*

集約機能（臨海部）

- ・ 中心市街地来訪者の駐車場機能を果たし、公共交通を使い中心市街地へ誘導
- ・ 中心市街地を含めた観光情報などを集中的に提供

空間提供機能（臨海部）

- ・ 新湊の新鮮で種類が豊富な魚介類や海辺の環境を活かした空間を市民に提供

集客機能（中心市街地）

- ・ 内川の魅力や中心市街地の資源を活用

サポート機能（中心市街地）

- ・ 市民の力をまちづくりに活用
- ・ 高齢者の技術や職人の技をまちづくりに活用

連絡機能（両地区）

- ・ 中心市街地と臨海部を連絡する新たな移動手段を提供
- ・ 既存の移動手段の利便性を向上

< 第2段階 >

臨海部と中心市街地が一体となった活力ある地域の形成

学習機能（臨海部）

- ・ 研究機関や周辺企業を学習の場として提供

集客機能（中心市街地）

- ・ 内川沿いの街並み整備と新たなサービスの展開

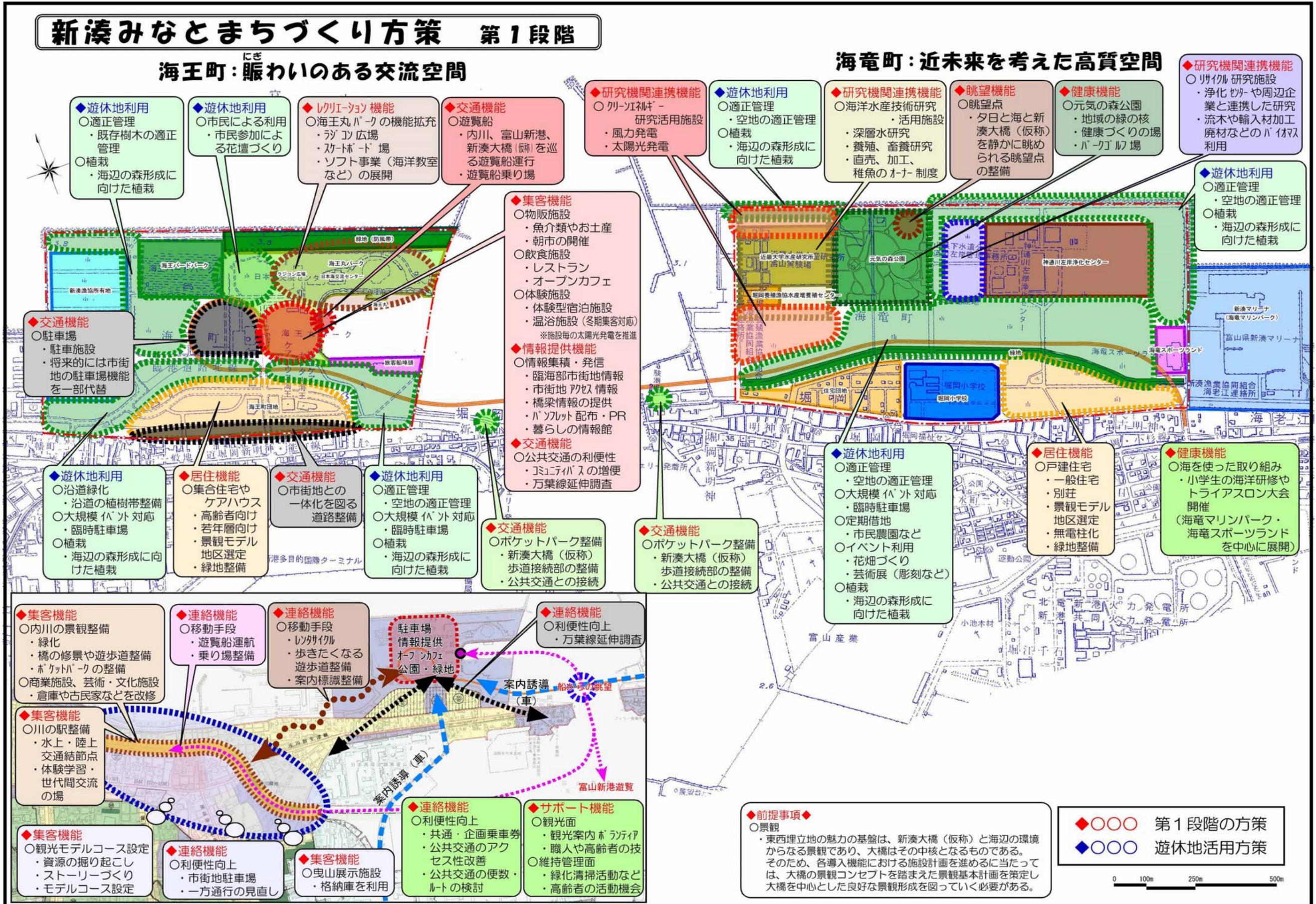
連絡機能（臨海部）

- ・ 既存の移動手段の利便性を向上

6 新湊みなとまちづくり方策

臨海部の土地利用活用方策及び臨海部と中心市街地の連携方策に基づき新湊みなとまちづくり方策を以下のとおり提案する。

(1) 第1段階<新湊大橋(仮称)の完成まで>



第1段階 <新湊大橋(仮称)の完成まで>

	導入機能	導入施設	概要
海王町	交通機能	駐車場	将来的には市街地の駐車機能を一部代替する駐車場として整備
		遊覧船・乗り場	内川、富山新港、新湊大橋(仮称)を巡る遊覧船。市街地との連絡機能も担う。
		ポケットパーク	新湊大橋(仮称)歩道利用者のたまり空間として接続部にポケットパークを整備
		公共交通	コミュニティバスの増便や路線変更などによる利便性の向上
		道路整備	中心市街地との一体化を図る道路整備
	集客機能	物販施設(お土産店など)	来訪者に魚介類やお土産などを販売する施設。朝市の開催にも対応
		レストラン	団体観光客の立ち寄りにも対応した飲食サービスを提供する施設
		オープンカフェ	帆船海王丸、新湊大橋(仮称)などの景観や海辺の雰囲気を楽しめる施設
		体験型宿泊施設	漁業体験(ホタルイカ漁の見学など)が楽しめる宿泊施設
		温浴施設	帆船海王丸、新湊大橋(仮称)などの景観を活かした温浴施設(冬期の集客を考慮)
	情報提供機能	情報提供施設	新湊大橋、海王町・海竜町・市街地の情報を集約し来訪者に提供。パンフレットなどの配布・PR
		暮らしの情報館	新湊出身の著名人に着目した生活情報を提供する集客施設
	居住機能	集合住宅	若年層を対象とした集合住宅
		高齢者向け住宅	高齢者を対象とした集合住宅やケアハウス
		景観モデル地区の選定	住民協定を締結し、帆船海王丸及び新湊大橋(仮称)の景観と調和した緑豊かで良好な街並みを形成
	レクリエーション機能	緑地・公園	憩いの空間となる緑地や公園を各所に配置
		海王丸パークの機能拡充	既存のラグーン広場の拡充やスケートボード場などの新たな施設を導入。海洋教室などのソフト事業の展開
	コミュニティ活動	コミュニティ活動の場の提供	花壇づくりなど
遊休地利用	適切な管理とイベント時の活用	周辺の景観と臨時的な駐車場利用に配慮した適切な管理の実施と市民による花壇整備などの活用。海辺の森形成に向けた植栽	
海竜町	健康機能	元気の森公園	パークゴルフ場などを配置した地域の緑の核となる公園整備。市民の日常的な健康づくりに寄与
		海を使った取り組み	海竜マリンパークと海竜スポーツランドを中心とした小学生などの海洋研修やトライアスロン大会の開催
	研究機関との連携機能	クリーンエネルギー研究・活用施設	風力・太陽光を活用した発電施設など
		リサイクル研究施設	浄化センターや周辺企業と連携した研究施設や流木・輸入材加工の廃棄物などのバイオマス活用研究
		海洋水産技術研究・活用施設	深層水や海洋水産技術の研究。養殖技術を活用した魚介類販売や加工品開発、稚魚のオーナー制度などによる活用
	交通機能	ポケットパーク	新湊大橋(仮称)歩道利用者のたまり空間として接続部にポケットパークを整備
	眺望機能	眺望点	夕日と海と新湊大橋(仮称)を静かに眺められる眺望点の整備
	居住機能	戸建住宅・別荘	高い持ち家志向に対応した戸建て住宅や、主に海竜マリーナの利用者を想定した別荘
		景観モデル地区の選定	住民協定を締結し、新湊大橋(仮称)などの景観と調和した緑豊かで良好な街並みを形成。無電柱化を検討
	コミュニティ活動	コミュニティ活動の場の提供	環境教育と一体となった緑化活動や清掃活動
遊休地利用	適切な管理とイベント時の活用	周辺の景観と臨時的な駐車場利用に配慮した適切な管理の実施とイベント開催などの積極的な活用。海辺の森形成に向けた植栽	

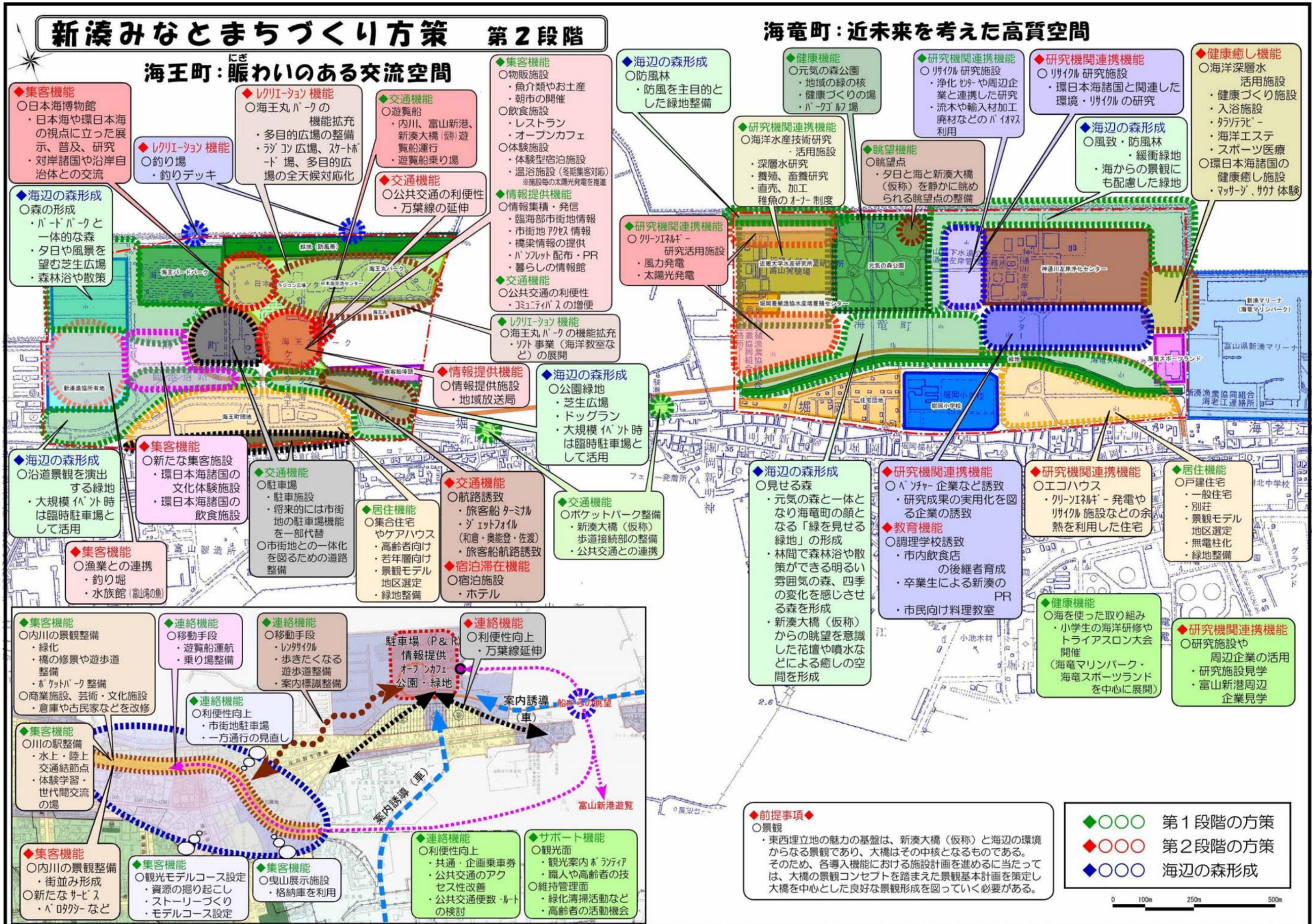
バイオマス(Biomass)

生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」例:木材、草、廃棄紙など

	導入機能	導入施設	概要	
市街地	集客機能	内川の景観整備など	日本のみなとまちらしさを創出する緑化や修景、遊歩道やポケットパーク及び休憩施設の整備	
		観光モデルコースの設定	まちなかの資源の掘り起こしやストーリーづくりによる観光モデルコースの設定	
		倉庫をリニューアルした商業施設など	内川沿いの倉庫や古民家を改装した商業施設、芸術・文化施設などの導入	
		曳山展示施設	市街地に点在する曳山格納庫を利用した展示施設	
	サポート機能	川の駅	水上交通と陸上交通の結節点や体験学習・世代間交流の場として整備	
		観光面	生涯学習と一体となった観光案内及び職人の技術活用や高齢者の経験・技術の活用など	
全域	連絡機能	新たな移動手段	遊覧船・乗り場	移動自体が魅力となる遊覧船の運航と中心市街地側の乗船場の整備
			レンタサイクル	楽しみながらの移動を可能にするレンタサイクルの導入
			遊歩道・案内板	街なかの資源を結び、休憩スポットを配置した、歩きたくなる遊歩道を整備。的確な誘導を行う案内標識を整備
		移動手段の利便性向上	市街地駐車場	自動車でのアクセス性を向上させる駐車場整備
			一方通行の見直し	市街地における一方通行を見直し、自動車での移動の利便性向上を図る。
			万葉線延伸調査	海王町における万葉線の利便性向上を図る、路線延伸に関する調査
	公共交通の利便性向上	共通・企画乗車券	多様な移動手段と市街地での食事を組み合わせた共通・企画乗車券の販売	
		公共交通の利便性向上	万葉線とコミュニティバスとの連携強化などにより、公共交通によるアクセス性を改善 運行便数や新たなルートの検討	

トライアスロン

水泳・自転車・マラソンの三種目を一日で行う耐久競技。一般に、水泳1.5km、自転車40km、長距離走10kmを行い、総計の時間を競う。



第2段階 < 新湊大橋（仮称）完成以降の長期 >

	導入機能	導入施設	概要
海王町	宿泊滞在機能	宿泊施設	市域に不足している来訪者の宿泊滞在施設
	集客機能	環日本海諸国の文化体験施設	環日本海諸国の映画・演劇・生活・文化などを体験する施設
		環日本海諸国の飲食施設	環日本海諸国の料理・アルコールなどを提供する施設
		日本海博物館	環日本海の視点に立った展示・普及・研究及び対岸諸国や沿岸自治体との交流の拠点
		漁業と連携した施設	畜養技術を活用した釣り堀や新湊漁港に水揚げされる魚を紹介する水族館
	情報提供機能	情報提供施設	地域放送局による情報発信
	レクリエーション機能	釣り場	安全で快適な水辺空間としての釣り場
		海王丸パークの機能拡充	レクリエーション施設(ラジコン広場・スケートボード場)に多目的広場を整備するとともに、それらについて全天候対応化を図る。
	交通機能	航路誘致・旅客船ターミナル	和倉・奥能登・佐渡へのジェットfoilや旅客船航路を誘致
	海辺の森形成	海辺の森形成	地被・疎林・自然林といった変化に富んだ緑地を整備し、夕日を望む芝生広場と森林浴・散策ができる森を形成
連絡機能	万葉線の延伸	海王町における万葉線の利便性向上を図る、路線の延伸	
海竜町	健康癒し機能	海洋深層水活用施設	海洋深層水を活用した健康づくりを行う施設や入浴施設、海洋エステなどの癒し施設
		環日本海諸国の健康癒し施設	環日本海諸国の特徴あるマッサージやサウナの体験施設
	研究機関との連携機能	研究施設や周辺企業の活用(見学)	研究施設の見学や富山新港周辺の工場見学による産業観光
		リサイクル研究施設	環日本海諸国と関連した環境・リサイクルの研究
		ベンチャー企業などの誘致	研究成果の実用化を図る企業の誘致
		エコハウス	クリーンエネルギー発電やリサイクル施設の余熱などを利用した居住施設
	教育機能	調理学校	市内飲食店の後継者育成施設。卒業生による新湊のPR。市民向けの料理教室の開催
海辺の森形成	海辺の森形成	地被・疎林・自然林といった変化に富んだ緑地を整備し、良好な景観の緑地や散策ができる明るい雰囲気のある森、四季の変化を感じさせる森を形成。新湊大橋(仮称)からの眺望を意識した花壇や噴水などによる癒しの空間を形成	
市街地	集客機能	内川の景観整備	日本のみなとまちらしさを創出する街並み形成
		新たなサービス	観光客に対応したベロタクシー(自転車)など新たなサービスの提供

ジェットfoil
 吸入した海水をジェット噴射し、船体を海面から浮上させて推進する高速船。時速80kmでの航行が可能で、波の影響を受けないため揺れが少ない。

ベンチャー企業
 高度な知識や新技術を軸に、革新的、創造的な経営を展開している研究開発型の中小企業

ベロタクシー (Velo Taxi)
 ドイツで開発された環境に優しい自転車型タクシー。ベロはラテン語で自転車を意味する。

7 方策の実現化に向けて

7 - 1 実現化に向けた考慮事項

新湊みなとまちづくり方策の実現に向け、今後考慮すべき事項について、以下のとおり整理した。

(1) ソフト事業の展開

本方策に位置付けたハード整備は、あくまで舞台づくりであり、舞台に人が集まり舞台を有効に活用してこそ、まちの活性化につながることから、整備された施設や新湊固有の資源を最大限に活用したソフト事業を積極的に展開することが重要である。

例：既存イベントと新規イベントを組み合わせ、通年的にイベントを開催

大橋の眺望点を掲載したガイドマップなどによる情報発信

地域に愛着や誇りを持つ市民による情報発信

既存施設の積極的な利活用及び遊休地の活用策の公募

新湊の資源のブランド化による他地域との差別化

(2) 国際化への対応

本方策では、臨海部の土地利用活用方策の共通テーマとして「環日本海の中の新湊」を掲げ、国内外の人・文化の結節点の形成を目指しており、その一環として外国人にもやさしいまちづくり（道路標識や案内板への外国語併記や絵文字（ピクトグラム）併記、外国語での情報発信）が求められている。

また、海竜町については、持続可能な資源循環型社会の実現に向けた環日本海における拠点形成を目指す上で、対岸諸国からの技術研修員の受入れを推進するなど、環日本海諸国との連携を推進することが必要である。

(3) 少子高齢化への対応

少子高齢化社会の到来を踏まえ、施設の整備に当たっては、バリアフリーに配慮するなど様々な人が使いやすいデザイン（ユニバーサルデザイン）を採用するとともに、増加傾向にある高齢者の需要に合致した機能（施設）の配置が求められる。

一方、深刻な社会問題となっている少子化への対応として、子ども連れの来訪者が快適に過ごすことのできる機能配置についても配慮が必要である。

(4) 各種計画の策定

環境問題への対応

環境問題は行政、事業者、市民にとって避けて通ることのできない21世紀における最重要課題の1つである。従って今後の環境対策には、公害防止や自然環境の保護だけでなく、都市活動や社会経済のシステムを持続可能な資源循環型のシステムに転換していくことが求められる。

この様な社会情勢を踏まえ、本方策ではクリーンエネルギーの活用を始めとする様々な事業を提案している。今後はこれらの事業の実現に向け、市民や事業者と連携して環境基本計画を早期に策定し、環境にやさしい地域を構築していく必要がある。

景観の保全・形成への対応

本地域における集客資源の中核の一つは帆船海王丸、新湊大橋（仮称）立山連峰、内川などが織り成す美しい「景観」である。従って、今後方策を実現していく過程においては、新湊大橋（仮称）の景観整備に係る方針（下記参照）を踏まえながら、臨海部（海王町・海竜町：既存の住宅団地を含む）及び中心市街地を対象とした景観基本計画を早期に策定し、美しく個性ある景観を保全・形成していく必要がある。

特に、内川に代表されるみなとまち新湊の歴史ある風景についてはその保全に十分留意するとともに、新湊大橋（仮称）の景観を最大限に活かし、臨海部の至る所から新湊大橋（仮称）を眺めることができるような景観づくりを目指すことが重要である。

なお、計画の策定に当たっては、地域住民の意見を十分に踏まえ、住民の積極的な参加が得られる実効性のある計画にすることが求められる。

新湊大橋（仮称）の景観整備に係る方針

【全体コンセプト】

- 伏木富山港の古き良き伝統を踏まえ、21世紀の環日本海地域の新たな象徴、交流と安らぎの場を創出する橋梁デザイン -

【主橋梁部コンセプト】

海上に浮かぶ空中歩廊 ~海と風と歴史を感じる自転車歩行者道~

【アプローチ部コンセプト】

海風そよぐ交流の門 ~「まち」と「新たなウォーターフロント」をつなぐ~

総合的な交通体系の確立

中心市街地には古くからの道路が残っているものの、その機能は現在の車社会に十分対応しているとは言えない状況である。一方、沿道には歴史的資源や個性ある街並みが点在しており、それらが新湊独特の景観を形成している現状がある。

従って、東西両埋立地を東西に結ぶ新湊大橋（仮称）完成による交通機能の強化及び市内全域を網羅する公共交通機関（万葉線、コミュニティバス）、実現化に向け計画が進められている遊覧船（海王町と中心市街地を結んで運航される予定）といった市内の交通機能を体系的に整理する交通マスタープランを策定し、総合的な交通体系の確立と街並み保存の両立について検討していく必要がある。

7 - 2 実現化の方針

(1) 住民参画の推進

新湊みなとまちづくり方策を着実に実現していくためには、個々の事業の資金調達、整備計画、維持管理に至るあらゆる場面で、住民や各種コミュニティ団体による積極的な参画が不可欠である。

従って、今回実施したワークショップやアンケート調査のような直接住民の意見や考えを取り入れる広聴活動の充実及び整備資金の一部を広く住民から募る手法（ミニ公募債、出資金）を検討するなど、住民のまちづくりへの参画意識を高めるとともに、住民参画のための仕組みづくりを確立し、住民とともに方策の実現化を目指すことが求められる。また、実現化への第1歩として関係団体そして住民の参加による「（仮称）新湊みなとまちづくり推進委員会」を発足させ、それぞれの連携・協力体制を構築し、事業化の手法や事業主体、施設規模などについて詳細な検討を進める必要がある。

実現化の方針

**住民と行政の協働
関係機関との連携・協力**

(2) 第1段階に向けた取り組み

本方策の実現化に向けて、第1段階に位置付けられている事業の中から活性化の起爆剤と成り得る以下の事業を「先導的事业」と位置付け、実現に向け集中的に推進を図ることが重要である。更に、比較的早急な対応が可能な「観光モデルコースの設定」、「案内板整備」、「市民参加による観光案内への取り組み」及び「環境教育と一体的な緑化活動や清掃活動」については、速やかに取り組んでいく必要がある。

先導的事业

- 海王町：集客機能
(物販施設・レストラン・オープンカフェ・温浴施設・体験型宿泊施設)
- 海竜町：研究機関との連携機能
(クリーンエネルギー研究活用施設・リサイクル研究施設・海洋水産技術研究活用施設)
- 市街地：集客機能
(内川の景観整備、内川観光遊覧船、川の駅整備、商業機能の充実)

(3) 第2段階に向けた取り組み

第2段階に位置付けた事業について、早期の実現が可能であると判断される場合は、整備の前倒しを行ったり、経済情勢や住民ニーズに変化があった場合は、随時導入機能の見直しを行ったりするなど、積極性と柔軟性をもって実現化を推進する必要がある。

ワークショップ

参加者が専門家の助言を得ながら問題解決のために行う研究集会又は参加者が自主的な活動方式で行う講習会

参考1 新湊みなとまちづくり方策の将来イメージ

(1) 海王町の将来イメージ

“賑わいのある交流空間” 形成に向けた将来イメージを以下のとおり設定する。

交流人口の視点に立った将来イメージ

現 況：海王丸パークを中心とした県内における日帰り観光地



第1段階：海辺の景観と魚介類を柱とした日帰り観光地

広域観光（能登、五箇山、立山など）における短時間の立ち寄り観光地

< 県内日帰り観光地としての機能充実 >

週末に妻と二人で新湊大橋や海王丸パークがある海王町に出掛けた。海王町内の駐車場に車を止めると、そこは多くの人でにぎわっており、スケートボード場の周りには若者も集まっていた。駐車場から見える施設の屋根には太陽光発電のパネルが取り付けられており、地域全体で環境に優しい取り組みが進められているように感じた。駐車場から目的の施設に行き、しばらく過ごしたあと、近くのカフェで軽く食事をとろうと思った。しかし、まだ少し時間があるので、他に何か無いかと辺りを見回すと、情報館があったので行ってみることにした。情報館では新湊大橋の情報や東西埋立地・市街地の情報が提供されており、海王町には宿泊して漁業体験ができる施設や温浴施設があることが分かった。また、中心市街地には飲食店や観光モデルコースがあって、遊覧船で行けるとのことだった。天気も良いので中心市街地に行ってみることにし、遊覧船乗り場に行き遊覧船に乗った。港町を感じさせる風景を見ながら遊覧を楽しんだ。川の駅に到着するころ、ちょうど昼時になったため、新湊の魚を食べさせてくれる店で昼食をとった。食後、腹ごなしにパンフレットを片手に観光モデルコースを歩いてみた。所々で観光ボランティアの方から説明を受け1時間程度の散策となった。散策の後、周遊券を買っていたので、今度は万葉線を使って海王丸パークに戻り、土産物屋で海産物や新湊の特産品を買って帰った。



50代夫婦

< 広域観光における立ち寄り観光 >

1泊2日の北陸観光ツアーの途中に、海王丸パークに立ち寄った。新湊大橋を渡りループ部を降りていると、車窓から綺麗な花壇が出迎えてくれた。海王丸パークでは、昼食を含め2時間の休憩を取った。ここでは海王丸パークに隣接するレストランで浜焼きを食べるグループと遊覧船に乗って中心市街地のお寿司屋で食事するグループに分かれた。私たちはお寿司屋に行き、昼食を満喫した後、新湊大橋や海王丸パークを観光し、フィッシャーマンズワープで新鮮な魚やお菓子などのお土産を買って出発した。バスはループ部を登り新湊大橋を渡った。橋の主塔と立山連峰のダイナミックな風景が印象的だった。



40代主婦

フィッシャーマンズワープ
漁港周辺などにおける、レストランや観光土産店などが一体となった施設





第2段階：内川の景観など中心市街地の魅力を加えた広域観光における宿泊滞在

< 宿泊滞在観光 >

商店街の旅行で新湊と能登半島の旅に行くために東京発の北陸新幹線に乗った。富山駅に着くと、駅前からホテル行きの直行バスが出ていた。バスに乗り海王町にあるオーシャンビューの**ホテル**に到着した。夕食まで少し時間があったので周辺を散策してみた。外は**雪**が降っており、その風景は改めて雪国を旅していることを感じさせた。近くに新湊大橋や海王町・海竜町、中心市街地の**見所を紹介する施設**があったので立ち寄り、いろいろな情報を入手した。ホテルに戻ると夕食となった。夕食後は自由行動。若者のグループは**ライトアップされた大橋**などの夜景を見ながらお酒を飲んでいる。また、中高年のグループは中心市街地の飲食店に出掛けていった。次の日の朝、少し早起きして**最上階の温泉**に入った。今朝は天気が良く、新湊大橋やその背景に広がる3000m級の立山連峰、日本海や能登半島、帆船海王丸が**一望**できた。こんな景色は今まで見たことがないと思った。朝食の後はグループに分かれて観光。**遊覧船**で中心市街地の観光に出かけたグループは、神社仏閣が多い内川沿いを散策し、**お土産**を抱えて帰ってきた。また、女性グループは海竜町で**海洋深層水を使ったエステ**や**環日本海諸国の美容体験**に出かけた。家族連れのグループなどは、海王町の**環日本海諸国の文化体験施設**や**暮らしの情報館**、**日本海博物館**や**水族館**、海竜町の**発電施設**の見学などに出かけた。腕に覚えのあるグループは、漁港近くの**釣り堀**で釣り上げた大きな真鯛をお土産に帰ってきた。その後、**環日本海諸国の料理**などが楽しめる**施設**で昼食をとり、次の目的地の和倉温泉に向かうため、**旅客船ターミナル**に行った。ターミナルからは、和倉温泉や奥能登、佐渡に向かう**ジェットフォイル**の他に、韓国・ロシアを結ぶ**旅客船**も就航している。ターミナルからジェットフォイルに乗船し出港した。大きかった新湊大橋の姿がだんだん小さくなっていくと後ろ髪を引かれる思いがした。



商店街の旅行



定住人口の視点に立った将来イメージ

現 況：集合住宅や市営住宅、ケアハウスが立地しているが空地が多い



第1段階：中心市街地との近接性や公共交通の利便性を活かした、若年層や高齢者層に対応した集合住宅地

< 中心市街地に隣接した集合住宅地 >

海王町の**高齢者向け住宅**に引っ越してきた。新湊大橋の完成で通勤が便利になったし、窓からの海や大橋の眺めも良いので、辺りには**集合住宅の建設**が進み、周辺の企業に勤める若い世帯も多く住むようになった。ここは、中心市街地を結ぶ**公共交通が便利**で、買い物などの日常生活は車が無くても大丈夫なので、安心して暮らせる。海王丸パークに隣接する施設では**新鮮な魚介類が販売**されており、観光客や市民で賑わっている。中心市街地に住む友達も買い物のついでといてよく遊びに来る。窓から見える周りの**建物は統一感**があって美しく、気に入っている。休日には海竜町に住む孫と**緑地・広場**に出掛けたり、海を見たりして楽しんでいる。近くには、若い世帯が多く、孫の友達も多いみたいで、子どもたちが遊ぶ姿をよく見かける。月に数回、**地域の花壇づくり活動**や海王丸パーク内の**ステージを使った市民活動**などが行われて、中心市街地の人や地区の住民と一緒に活動するなど、いきいきとした地域になっている。



70代夫婦



高齢者向け住宅



集合住宅



公共交通



公園



花壇づくり



第2段階：良好な景観が形成された住みやすい集合住宅地

< 良好な景観の住みやすい住宅地 >

海王町の集合住宅に引っ越してきた。ここは、公共交通の便も良いし、新湊大橋があるから自動車の便も良い。また、**住宅団地にも緑がいっぱい**で、近くには**大きな緑地**や**釣り場**などがあり生活環境も良い。何より、新湊大橋をシンボルとした**街並み**や自宅の窓からの**眺め**がとても気に入っている。



20代夫婦



団地内の緑地



大きな緑地



釣り場



良好な景観

(2) 海竜町の将来イメージ

“近未来を考えた高質空間” 形成に向けた将来イメージを以下のとおり設定する。

交流人口の視点に立った将来イメージ

現 況：海竜スポーツランドや隣接する海竜マリンパークを中心とした日帰りスポーツレクリエーション空間、学術研究機関関係者などの利用



第1段階：海洋レジャー施設の活用促進

水産面と環境面の学術研究機能の充実

<健康機能の充実・学術研究機能の充実>

海竜マリンパークでヨットに乗ろうとやってきた。この辺りは県内を中心に多くの人々が集まりマリンスポーツのメッカになっている。また、県内外の小学生が海洋研修に訪れている。しかし、あいにくの空模様なので、温水プールやトレーニングジムなどがある海竜スポーツランドに行った。ここでは来月開かれるトライアスロンに向けて練習している人の姿も見受けられた。この辺りでは、海を使った取り組みが盛んに行われているようだ。

海竜町ではクリーンエネルギーやリサイクルなど環境に優しい様々な取り組みが行われており、施設の冷暖房や照明などの一部にその技術が活かされているらしい。スポーツランドのプールで泳いでいると、マリナーで良く顔を合わせる人に会った。この人は県外在住者だが、海竜町に別荘を建てて、週末にクルージングを楽しみに来ている。マリナーに近く交通の便も良いし、おいしい魚やおいしい水が楽しめるかと笑っていた。数時間楽しんだあと、新湊大橋を渡って海王町に行き、食事をして、お土産を買って帰った。



50代男性



第2段階：環日本海的环境研究拠点形成と研究成果を活用する企業の誘致

<環境研究拠点形成>

日本から輸出される中古自動車の環境対策の技術研修で来日した。ここには、環境に関する様々な研究機関や企業が集まっており、様々な国から多くの技術者が研修に訪れている。海竜町には中小の環境関連企業が進出しているほか、富山新港の背後地には大規模な企業も進出している。また、風力などによるクリーンエネルギーの実用化も進められており、新湊大橋のライトアップや臨海部における施設の電力需要をカバーしているそうだ。臨海部から廃棄物を出さないこと（ゼロエミッション）を目指した取り組みも進められており、環日本海における環境研究の拠点となっている。研究施設や富山新港周辺の工場では見学会が開かれており見学者も多く訪れている。また、この地域は、環境面ばかりでなく、海洋資源に関する研究も行われており、研究成果を活かした健康施設や新湊の魚介類を活かした調理学校などもあるとのことだ。



40代外国人



定住人口の視点に立った将来イメージ

現 況：戸建て住宅の集積が進んでいる新興住宅地



第1段階：日常生活における憩いの場が整備された住宅地
環境に優しいモデル地域

<住宅エリアの拡大と環境に優しいモデル地域>

最近、一戸建を購入し引っ越してきた。堀岡小学校の西側の住宅団地に加え東側の宅地造成が行われ、住宅の建設が進んでいる。ここは新湊大橋が完成したので、夫の通勤に便利だし、海王丸パークや海が近くて子どもも喜んでいる。新湊大橋は地域のシンボルとなっており、橋のたもとにあるベンチに座り、風景を眺めると、心が癒され、ここに住んで良かったと思う。この住宅団地は景観モデル地区に選定されているので街並みも素敵だと思う。家の北側には元気の森公園が整備され市民の日常的な憩い場となっており、先週末にも、子どもたちが海王町に住むおじいちゃんやおばあちゃんと一緒にパークゴルフに出掛けた。最近、夫は、近くにある海洋レクリエーション施設に集まる人たちと、サークルをつくり楽しんでいる。一方、水産研究施設の近くでは、養殖した魚介類を通年的に低価格で直売しているので重宝している。また、深層水に関する研究や風力・太陽光発電といった新エネルギーに着目した研究、輸入木材加工の廃棄物や流木などを利用したバイオマスエネルギーや富山新港周辺の企業も参加したリサイクルに関する研究など、環境に優しい取り組みが行われている。新湊大橋のライトアップやレクリエーション施設での余熱利用などが実現化しつつあり、子どもたちの世代のためにもどんどん取り組んでもらいたい。



40代主婦



第2段階：健康・癒し・学術研究施設と連携した高質な住宅地の形成

<高質な住宅地の形成>

最近、健康・癒し施設など、海辺の環境を活かした施設が充実してきたので、昼間に近所の友達を誘って、海洋深層水を使ったプールで健康づくりを行っている。先月、親戚の家族が東京から遊びに来たときにも、子どもたちと夫が海王丸パークや周辺の施設に遊びに行ったので、女性たちを海洋深層水の入浴施設に連れて行ったところとても好評だった。また、近くの小学校では、児童や市民を対象とした環境教育や地域の歴史教育活動が行われている。子どもと一緒に参加してみると、身近に多くの教材があるのでとても分かりやすかった。最近行政と協力し、空き地の緑化なども行っているので住環境もすばらしいと感じている。家の近くには、新たな取り組みとしてクリーンエネルギーで発電された電力やリサイクル施設の余熱を利用したエコハウスが建てられた。今後、この様な取り組みを地域全体に広げていくとのことなので、今後が楽しみです。



30代主婦



(3) 臨海部と中心市街地との連携の将来イメージ

現 況：あまり連携が図られていない。



第1段階：臨海部への来訪者の選択肢の1つとしての中心市街地観光
中心市街地居住者や就業者の憩いやコミュニティ活動の場
子どもの学習の場

< 選択肢としての市街地観光 >

新湊大橋が完成したと聞いて海王町にやって来た。大橋や海王丸パークを一通り見学した後に、情報館に行ってみると市街地に関する観光モデルコースや飲食店の紹介があった。おもしろそうなので市街地に行ってみることにした。市街地に行く方法を聞くと、自動車やレンタサイクル、徒歩でも行けるし、駐車場の近くから遊覧船、コミュニティバス、万葉線も運行しているとのことだった。また、市街地にも駐車場があるとのことだった。遊覧船は、内川の景観がセールスポイントであり、移動するだけでもおもしろそうなので、遊覧船と公共交通、市街地の寿司屋での食事がセットになった切符を買って市街地に行ってみた。遊覧船に乗りしばらくすると内川に入った。そこには「みなとまち新湊」を感じさせる風景が広がっていた。川岸には漁船が停泊し、川沿いの遊歩道に植えられた草花が小さな花を付けている。遊歩道を歩く人や川をのぞき込んで何かを捕まえている子どももいる。時間がゆっくりと流れているようだ。しばらくして川の駅で船を下りた。パンフレットに載っていた寿司屋で食事したあと、散策マップを見ながら観光モデルコースを歩いた。途中には倉庫などをリニューアルした商業施設なども点在していた。街なかには案内板が整備されているので迷うことなく散策することができた。所々にある曳山展示施設では、OBの人たちが観光ボランティアとなって説明をしてくれたので面白く、一度曳山まつりを見てみたいと思った。説明が終わり市内を循環するコミュニティバスに乗って帰った。



60代夫婦



< 市街地の憩い・コミュニティ活動の場 >

最近、臨海部では新湊大橋の完成や周辺が整備され、今までとは違った海を感じることでできる空間になっている。大橋のある港の風景が一番好きな景色で、ちょっとした自慢だ。橋の周りには新しくできた大きな緑地やレクリエーション施設があるので、散歩がてらよく行くようになった。海辺のお洒落なオープンカフェは、デートスポットにもなり、若い人たちも多く訪れているようだ。

地区住民と一緒に海王町で花壇づくりを行った。毎年行われている地区対抗の花壇コンクールは、海王町を訪れる観光客が審査するものだ。また、海王町や海竜町では、子どもや高齢者が参加した環境教育活動や清掃活動なども行われている。



30代男性



<子どもの学習の場>

修学旅行で新湊を訪れた。海王丸パークに到着したあと、遊覧船で中心市街地に向かった。船に乗るのは生まれて初めてだったので、ワクワクした。船からの眺めは、いつもと違った雰囲気^①で楽しく、潮風が気持ち良かった。中心市街地では、お寺や神社をまわって地域の歴史^②について勉強した。その後、新湊漁港に行って昼のセリ^③を見学した。セリは朝行われるものだと思っていたが、ここでは、お昼にも行われているので驚いた。魚の種類が多くて、知らない魚がいっぱいだった。最後に新湊大橋^④を見学した。エレベーターで大きな新湊大橋に登ると、午前中にまわったお寺や遠くの山が見えて綺麗だった。



小学6年生



第2段階：臨海部と中心市街地が一体となった観光

憩い・コミュニティ活動の場としての空間機能の強化

<一体となった観光>

観光雑誌で紹介されていた新湊に行ってみた。ガイドブックには海王町に行けば新湊に関する情報をまとめて入手できると書いてあったので、まずは海王町に行くことにした。幹線道路から案内標識^①に従い車を走らせる。途中、見え隠れしながら徐々に近づく新湊大橋にワクワクしながら、スムーズに海王町の駐車場^②に到着することができた。駐車場は広く、隣接して新湊の情報館があった。情報館で事前にチェックしておいた内川沿いの遊歩道やお店の詳しい情報を教えてもらい、天気が良いので楽しそうな遊覧船で行ってみることにした。遊覧船が出発するとすぐに大橋の下をくぐった。下から眺める橋の大きさに圧倒された。桁下に歩道があって、エレベーターで登れるそうなので帰りに行くことにした。内川沿いは港町らしい街並み^④になっており、所々に新しい商店がありこだわりの商品を売っていたり、職人さんに習いながら体験ができるお店もあつたりした。市街地では散策用のレンタサイクルやペロタクシーなども走っている。市街地から万葉線に乗って海王町まで戻った後、新湊大橋に登り、展望施設^③から行き交う船と夕日、赤く染まった立山連峰を見て帰った。内川の風景や新湊大橋からの眺めなど新湊の風景は、世界に誇れるものだと感じた。



20代カップル



<市民活動空間の強化>

子どもと一緒に自治会が主催する臨海部探検ツアー^①に参加した。朝早く近所の人たちと神社に集合し、歩いてバードパークまで行き野鳥を観察した。海王町の中でもここは静かな空間だ。その後、新湊大橋を渡って海竜町に行き研究施設^②などを見学した。ツアーが終わり大橋と万葉線を使って我が家に帰る。大橋の近くまで万葉線が伸びて便利になり利用者も増えているようだ。帰り道、改めて考えてみると、先週も家族で海王町に遊びに来ていたし、最近海を見る機会が増えた^④なと思った。



30代親子

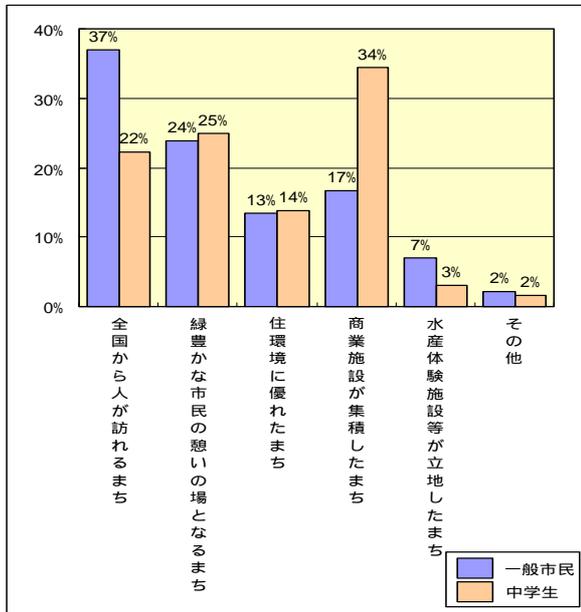


参考2 住民意向の把握

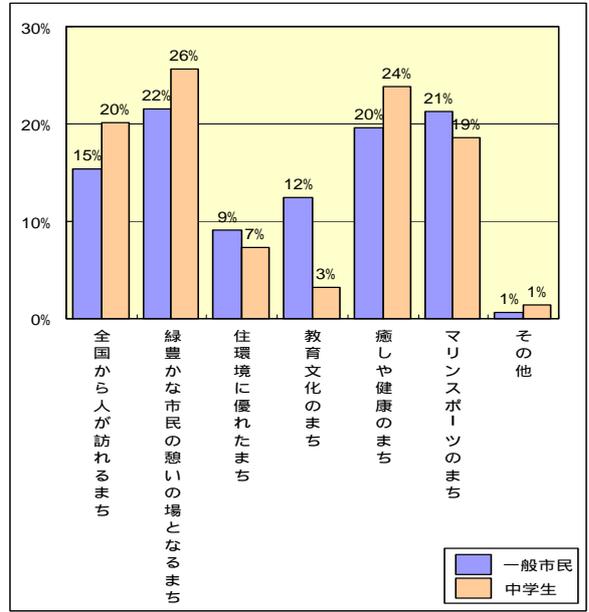
2-1 アンケート調査

(1) 土地利用の方向性

- ・ 一般市民で最も多い回答は、海王町が「全国から人が訪れるまち」、海竜町が「緑豊かな市民の憩いの場となるまち」であった。
- ・ 中学生で最も多い回答は、海王町が「商業施設が集積したまち」、海竜町が「緑豊かな市民の憩いの場となるまち」であった。



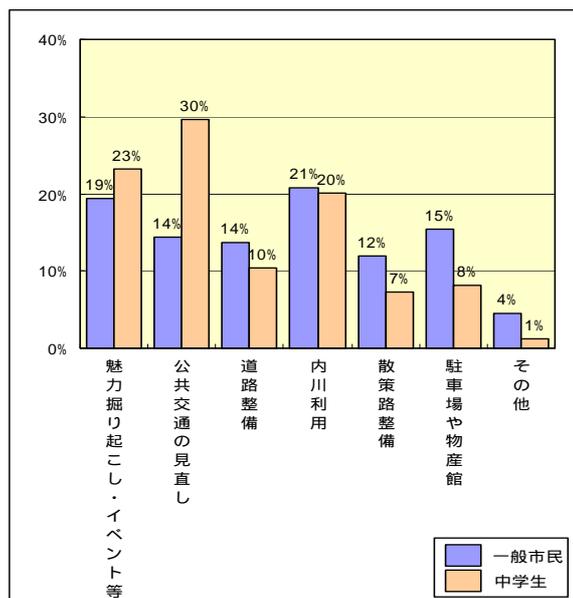
海王町の土地利用の方向性



海竜町の土地利用の方向性

(2) 臨海部と中心市街地との連携に必要な事項

- ・ 一般市民で最も多い回答は、「内川を使った新たな交通手段の整備」、次いで「市街地の魅力掘り起こし」であった。
- ・ 中学生で最も多い回答は、「公共交通機関の料金や便数等の見直し」、次いで「市街地の魅力掘り起こし」であった。



臨海部と中心市街地との連携に必要な事項

2 - 2 ワークショップ

市民や子どもの視点に立った土地利用活用方策や連携方策を把握するために、市内の各種団体の代表者及び放生津小学校5年生によるワークショップを開催した。

(1) 市民ワークショップ

第1班の方策(案)概要

- ・ 陸、海、空の玄関口を目指す。
(陸は北陸新幹線富山駅へのアクセス向上、海はジェットフォイルや定期フェリー航路の誘致、空は富山湾への富山空港移転)
- ・ 海王町には宿泊施設、物販施設、観覧車などのレジャー施設、展望タワーなどを配置
- ・ 海竜町は美容・健康をテーマとした施設や戸建て住宅を配置
- ・ 中心市街地では、内川沿いの街並み整備や観光ボランティア、観光客向けサービス機能を配置し、遊覧船で連絡



ワークショップの様子

第2班の方策(案)概要

- ・ 海王町は、主に市外からの観光需要に対応した観光施設や飲食施設を配置
- ・ 海竜町は、主に健康・癒し・学術施設を配置。地の利を活かして調理学校を誘致すれば、新湊の財産である寿司・割烹などの料理人の後継者問題が解決できるだけでなく、料理人の卵が新湊の魚の味を知ることにより、新湊のPRも可能になる。
- ・ 中心市街地は、臨海部を訪れる観光客を誘引するための核となる施設や「みなとまち」らしい雰囲気づくりが必要
- ・ 人口に占める外国人の比率が高いため、外国人との共存共栄を考えたまちづくりも必要

(2) 小学生ワークショップ

	海王町	海竜町	その他
導入施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊園地(観覧車やジェットコースター) ・ 動物園(サーカス場)、水族館 ・ 展望タワー ・ 開閉式のドーム球場 ・ 宿泊施設(ホテル) ・ テレビ局 ・ ヘリポート ・ レストランや富山名物商店街 ・ 朝市、海鮮街 <p>発表の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水族館、植物園 ・ 海鮮レストラン ・ 海中に潜るエレベーター ・ ホテル ・ ヘリポート ・ 伝統工芸の体験施設 ・ 温浴施設・温水プール ・ お魚学校 ・ 内川博物館 ・ 天文台を併設した大学 ・ 時計台のある芝生広場 ・ 噴水 ・ 大橋から文字が見える花壇 ・ 花見ができる場所 ・ テレビ局 ・ クリーンエネルギー関連会社 ・ 老人ホーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気球で両地区を連絡 ・ 北前船の形の遊覧船 ・ 海中を潜るモノレール「モグレール」 ・ 飛行船による遊覧 ・ 潜水可能なヘリコプター
	【その他のキーワード】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電 ・ 海中遊覧 ・ 来訪者の心を癒す ・ 建物の屋上緑化 ・ 新鮮な魚を活かす ・ 魚や地域を学ぶ 		

参考3 国際交流イベント

2か所の世界遺産があり、都市活性化と観光施策に積極的に取り組んでいる、イタリア・ティボリ市長などを迎え、海鮮まつりや市内視察を通して本市のまちづくりの方向性について意見交換をするとともに、みなとまちづくりや観光振興への取り組みについて提言を受けるため、有識者を交えた国際シンポジウムを実施した。

(1) 実施内容

新湊市とイタリア・ティボリ市との国際交流・市内視察・意見交換

概要 新湊産業海鮮まつりで新湊市長とメッセ
ージを交換

海鮮まつり会場（新湊漁港東地区）、県営
渡船、東西両埋立地、内川、曳山格納庫の視
察、意見交換



日伊国際シンポジウム

概要 基調講演

「日本の観光政策と観光の現状について」：鷲頭 誠 国土交通省総合観光政策審議官
「ティボリ市の紹介と都市再生への取り組みについて」

：マルコ・ヴァンチェンツィ ティボリ市長

「新湊市の紹介と観光振興への取り組みについて」：分家 静男 新湊市長

「観光の視点から見た新湊の展望について」：須田 寛 JR東海相談役

「イタリアの世界遺産都市における観光への取り組みについて」

：大島 悦子 JAPANITALY.COM

討議「ティボリ市と新湊市の将来展望について」

(2) 意見概要

ティボリ市との文化交流・意見交換

- ・ 新湊には、古い歴史や文化があり、観光に活用できる資源が多いと感じた。
- ・ 新湊大橋という大事業を、商業的産業的な発展だけではなく、観光資源として使
っていかうとする意欲に感動した。
- ・ 新湊大橋の建設が起爆剤となり、商工業だけでなく中心市街地や臨海部について
も更に活性化されることを期待している。

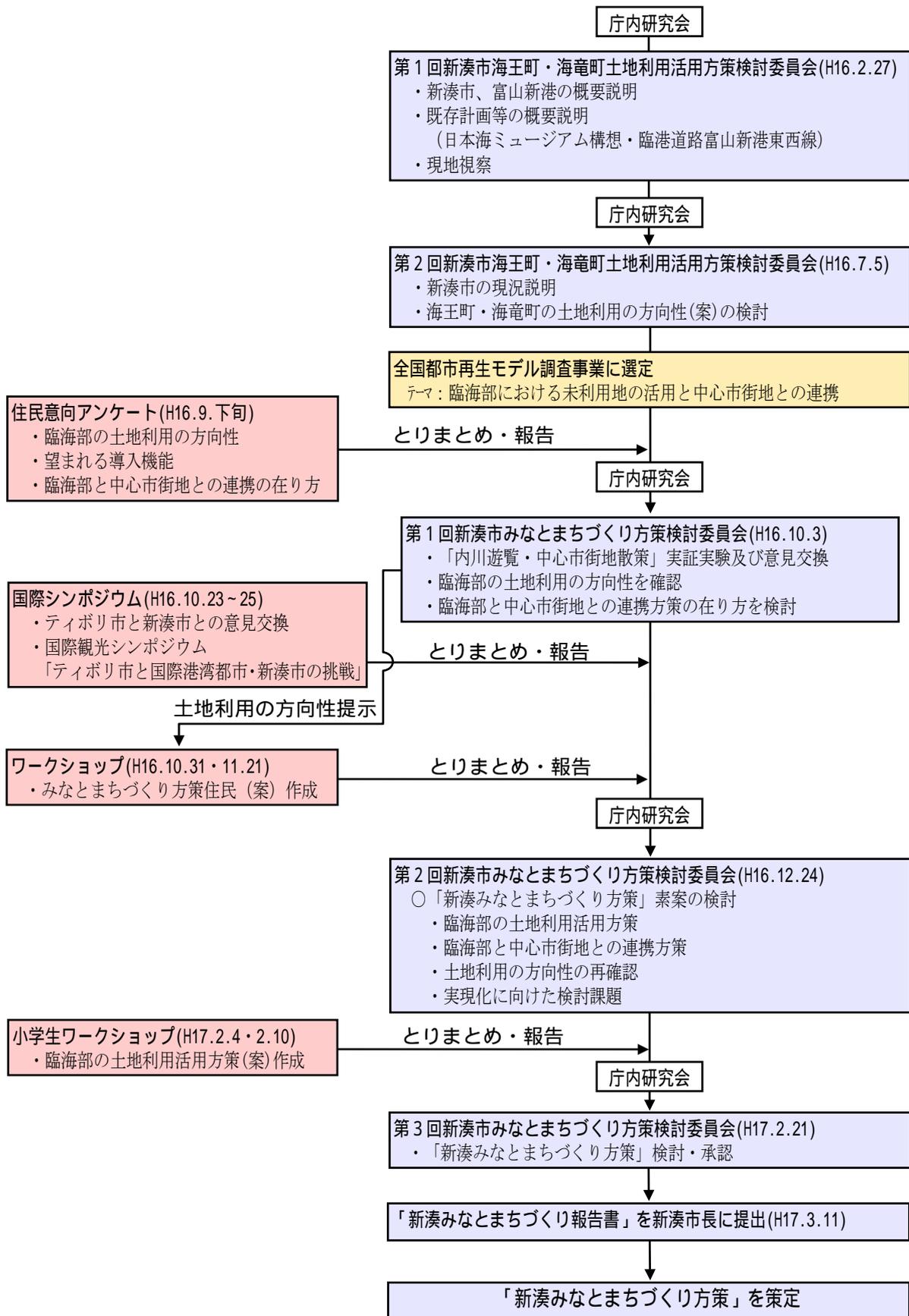
日伊国際シンポジウム

- ・ クルーズ船の旅に対する国民のニーズは高く、今後行い
たい旅行調査の第2位であるので、クルーズ船の寄港を視
野に入れたまちづくりも考えられる。
- ・ 新湊市の観光には「港湾観光」「産業観光」「都市観光」
の3つの可能性が考えられ、これらがうまく連携すること
で、魅力的な観光地となることができるのではないか。
- ・ 新湊大橋と東海北陸自動車道の完成により、新湊市は中央日本の環日本海の門戸
となり、名古屋や四日市といった環太平洋の門戸と連携することで、大きな交流圏
が形成される。
- ・ 地元の人が地元の文化資源を見直し、それを多くの人に知ってもらおうと努力す
ることが重要である。また、そのためには市民の意識改革が必要である。



参考4 検討の経過

新湊みなとまちづくり方策策定に係る検討の経過は以下のとおりである。



「新湊みなとまちづくり方策」策定の経過

「新湊市みなとまちづくり方策検討委員会」委員等名簿

委員

氏 名	役 職	備 考
雨宮 洋司	富山大学教育学部教授	委員長
相田 康幸	西日本鉄道(株)東京事務所部長	
井沢 信一	J T B 富山支店長	
大井 紀子	日本テレビ放送網(株)審査室考査部参与	
黒川 威人	金沢美術工芸大学教授	
大代 武夫	新湊市自治会長連合会長	
八嶋 浩久	(社)新湊青年会議所理事長	
宮川 忠男	新湊市助役	

平成 16 年 10 月 13 日現在

オブザーバー

氏 名	役 職	備 考
中野 敏彦	国土交通省北陸地方整備局伏木富山港湾事務所長	
新川 稔	富山県生活環境部国際・日本海政策課長	
島 澄夫	富山県土木部港湾課長	

平成 16 年 10 月 13 日現在

「新湊みなとまちづくり方策」イメージパース

